

# くろしお協力隊に聞く



【今月の担当者】  
地域おこし協力隊  
(移住相談員)  
まつうら もえ  
松浦 萌

Q 5月から移住相談員として協力隊に着任した松浦さん。黒潮町を選んだ理由を教えてください。

A これまで、出身地である埼玉県のほか、東京都、カナダ、オーストラリア、宮崎県、静岡県とさまざまな地域で暮らしてきました。しかし、子どもが産まれたことをきっかけに、「自然いっぱいの地域で子育てがしたい」と移住を考え始めました。移住にあたり、サーフィンが好きなため、海が近い地域かつ夫婦で協力隊ができる地域を探しているうちに、黒潮町を見付けました。自然もたくさんあり、海も近く、良い環境だと感じ、黒潮町を選びました。

Q 黒潮町の生活で楽しみにしていることはありますか？

A 夫婦ともにサーフィンが好きなので、サーフィンをするのが楽しみです。先のことではありますが、子どもが大きくなったらホエールウォッチングをしたいと思っているので、それも楽しみにしています。まだ行ったことがないお店もたくさんありますし、移住者の方が経営するお店にも行ってみたいですね。

Q 現在はどんな仕事をしていますか？

A 今は物件案内や物件調査に同行することが多いです。仕事自体は移住希望者の対応窓口や、空き家の調査から管理など、想像していたより仕事の内容が多岐にわたっていて、「結構やることが多いんだな」という印象でした。まだ来たばかりで黒潮町のことをよく知らないなので、学んでいるところです。少しずつ知っていけるよう頑張ります。



窓口で受け答えをする松浦さん

## 協力隊から一言！

黒潮町の自然いっぱいの生活を子どもと一緒に楽しんでいきたいです。まだわからないことばかりなので、いろいろ教えてください。

# Kramer's Corner

クレマのコーナー



今月のテーマ アメリカの夏休み

日本では6月といえば何を思い浮かべますか。色とりどりで美しいアジサイでしょうか、それともじめじめした梅雨入りでしょうか。日本に来てから僕の6月のイメージは、雨が多く洗濯物が外で干せなくて困るということになってきました。でも子どものころ、6月はとても嬉しい時期でした。なぜかというと、アメリカでは6月に学年が終わり、夏休みが始まるからです。

そう、日本の新学期が4月に始まるのに対して、アメリカでは9月の頭くらいから翌年の5月末くらいまでが学年で、学年が終わったら、全国の生徒たちが毎年首を長くして待っている2カ月半から3カ月の長い夏休みが来ます。それに、日本みたいな夏休みの宿題も部活も全くありません。

では、その長い夏休みの間、アメリカの子どもたちが何をするのでしょうか。友人と遊んだり、家族と一緒に旅行したりして、高校生なら夏のバイトをすることも多いです。僕の場合は、ゲームが好きでしたから、毎日のようにゲームしていました。そして、梅雨が存在しないテキサスでは6月はもうとても暑いので、毎年ウォーターパークに行っていました。日本の夏休みと比べると、かなりのんびりできます。それは教育的にいいかどうかは言えないが、子ども心にとっても嬉しいことでした。



ウォータースライダー

今月の使える！英語

I can't wait!

「待ちきれない！」という意味で、何かをすごく楽しみにしている時に使う英語。

